

合格体験記

2019年12月25日

川崎 信太郎

【受験の動機】

中小企業診断士のことは以前から知っていて興味もありました。しかし忙しさを理由に本腰を入れる訳でもなく、1次試験のテキストを数冊買うも数ページ読んでそのまま、といった感じでした。

転機となったのは40代を迎え、将来に対する不安、長らく会社の中しか知らなかったが外でも通用する人間なのか試してみたいという好奇心、それに自分の時間ができ有効活用したいという気持ち、それらが揃って受験してみようという気持ちが芽生えました。しかしこの時はまだ試験に対する気持ちも中途半端であり、診断士になってやりたいことも不明確でした。

【昨年までの学習】

1年目の昨年は1次・2次とも独学で受け、もしも不合格なら学校に通うことも検討しよう、と最初からプランニングしていました。1次試験合格後、書籍やネットの情報を参考に解き方を学び、二次試験の前週になってようやく掴めてきた程度。当時「一事例に自分が持っていける武器（知識）は1つくらいだな」と思っていたのを覚えています。二次試験はやはり、不合格でした（A A B B）。

【S L Aを選んだ理由】

落ちるべくして落ちたので12月から早速学校探しを開始し、最終的に4校くらい回りましたが最初に講座説明会を聞いたS L Aにお世話になることに決めました。

1年目を終えて自分が学校に期待するものは「なぜその回答になったのか」「なぜこの回答ではいけないのか」を明確に説明してくれること、だと感じていました。S L A以外の各校も充実したカリキュラムを用意していましたが、倉前先生のお人柄含め、「ここなら自分が求めているものを得られるのではないかと直感しました。偶然ですが先日合格体験記を寄せた広瀬さんとはこの講座説明会で一緒になり、帰り道に「いいですね、ここ」と話をしたことを覚えています。

【講座内容について】

講座の特色は大きく分けて以下の3つだと考えます。

- ① 独自のテキスト・カリキュラム：詳細に書くのは控えますが（笑）、日本語の意味やニュアンスをすごく大事にしています。なぜこの言い回しをしているのか、この語句の意味することは何か、など、毎回の授業で気づくことがいくつもあります。その他にも倉前先生の豊富な知識と経験を披露いただくこともあり、自然と事例企業の世界が身近に感じられるようになっていきました。
- ② 個人の強み・弱みに応じた指導：私の場合、事例Ⅲが苦手だったのですが、参考になる書籍をいくつかご紹介いただき読むことで理解が深まりました。また、毎週宿題が出るのですが、その際に疑問に感じたこと・思ったことなどを書くと丁寧にフィードバックを頂けました。ですので「やらされ感」のある宿題ではなく、自分で考えることが楽しくなっていました（このやり取りの中で私は自分なりの解法を会得しました）。
- ③ 仲間との絆：講座は少人数制ですのでクラスメイトとの距離も近いです。
時には切磋琢磨し、時には勉学の悩みを共有し、独学の時には得られなかった仲間意識が1年間という長丁場で何度も私のモチベーションを高めてくれました。

【受験後から合格発表まで】

迎えた二次試験の日、少ない武器で不安げに校門をくぐった1年前とは違い、1年間で身に付けたたくさん武器を持って乗り込んでいきました。四つの事例企業と向かい合い、最後まで気持ちを切らさずに戦い抜くことができました。試験後すぐ再現答案を作成しましたが、予備校の模範解答や問題に関する情報は極力シャットアウトして日々を過ごしました。

合格発表の日、会社の休憩室で試験番号を確認。どういう訳か最初に目に飛び込んできたのが自分の受験番号で、あまりドキドキすることもなく合格を知り、あとから喜びと安堵が押し寄せてきました。

【最後に】

倉前先生のご指導のおかげで試験に合格することができました。ですがこれはゴールではなくスタートラインに立てた、と思っています。自分が何をやりたいのか、何に役立てるのか、はこれから診断士として活動していく中で明瞭になっていくと思います。

診断士になることでこれから先、自分の人生が大きく変わっていくと期待しています。そしてその背中を押してくださったSLAには深く感謝しています。